

## シンポジウム「東北日本の中・古生代の造構作用の諸問題」

世話人 (佃 栄吉, 小玉喜三郎)

昭和55年度構造地質研究会冬の例会は地質調査所にて、12月25日及び26日の両日開催された。広島大学で行われた夏の例会でのシンポジウム「西南日本の中・古生代造構作用の諸問題」の成功をうけて、26日には表記のシンポジウムをもつことになった。8氏に講演を依頼し、下記のプログラムにより、それらをもとに熱心な討論が行われた。

### <プログラム>

1. 東北日本の先第三系の地体構造 — 吉田 尚 (地質調査所)
2. 日本海溝はいつ形成されたか……海溝及びその周辺の地質構造から — 南雲昭三郎 (地震研究所)
3. 安倍族造山の諸問題 — 川村信人 (北海道大学)
4. 南部北上牡鹿地方中生界の褶曲構造 — 滝沢文教 (地質調査所)
5. 岩石構造からみた南部北上山地の造構作用 — 池田幸夫 (広島大付属福山)
6. 本邦中・古生層の生層序学について — 斉藤靖二 (国立科学博物館)
7. 花崗岩活動からみた東北日本と西南日本 — 石原舜三 (地質調査所)
8. 東北日本と西南日本の構造的関係 — 原 郁夫 (広島大学)

もちろん、このシンポジウムにおいて東北日本の中・古生代の問題がすべてとり上げられたわけではないので、今後、機会をあらためてより深めた討論をもたれることが期待される。本特集号には上記のうち、投稿された5編の論文が収められている。なお、例会参加者は次のとおりである。

粟田泰夫, 井内美郎, 垣見俊弘, 西村 昭, 衣笠善博, 遠藤秀典, 棚橋 学, 吉田 尚, 鈴木尉元, 角 靖夫, 滝沢文教, 玉生志郎, 須藤定久, 倉沢 一, 坂本 享, 高橋 清, 佐藤岱生, 柳沢幸夫, 奏 光男, 富樫茂子, 寺岡易司, 石原舜三, 野沢 保, 坂巻幸雄, 月村勝宏, 佐藤興平, 山田直利, 長浜春夫, 神戸信和, 中条純輔, 小玉喜三郎, 杉山雄一, 佃 栄吉, 品田正一, 国安 稔, 天野一男, 木村克己, 中村和善, 角田史雄, 三梨 昂, 谷口 彰, 小室裕明, 山内靖喜, 小坂共栄, 鈴木博之, 卯田 強, 藤田至則, 五月女順一, 久保田善裕, 林 譲治, 川村信人, 尾園修治郎, 原 郁夫, 富永良三, 鈴木茂之, 徳田 満, 矢野孝雄, 池田幸夫, 榆井 久, 飯川健勝, 南雲昭三郎, 斎藤靖二。